

情報掲示板

ファミリー会員新規入会・更新御礼

ファミリー団体入会・更新御礼

寄付御礼

いぶきファミリー賛助会員への  
新規加入・更新のお願い

年会費 個人:1口 2,000円 団体:1口 10,000円

ご入金 ①クレジットカード (更新手続きがいりません)  
<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>

②郵便振替:00840=3=91146  
加入者名/いぶきファミリー

③直接窓口:いぶき福祉会・  
ねこの約束(JR岐阜駅)



▲クレジット決済窓口

お問合せ いぶきファミリー事務局  
TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140  
E-mail: [ibuki.m@ibuki-komado.com](mailto:ibuki.m@ibuki-komado.com) (タイトルに賛助会員と記入)

いぶき日和  
その5

題:やくそく 作・絵:なみた



編集後記 林守男

日本で一番日本らしくないところ、それは沖縄の辺野古だろう。沖縄の美しい東海岸を名護に向けて北上していくと、突然異様な風景が現れる。道路の山側に数百メートルにわたり「辺野古埋め立て反対」の看板やのぼり旗が乱立した座り込み用のテント村が現れる。海側には民間の警備会社のいかつい警備員が微動だにせず一列に並び対峙している。制服の襟にはカメラがつけられ、座り込み側の動きを常に録画している。警備に要する人件費は2100万円/1日、座り込む反対派の人たちは手弁当である。沖縄の雇用情勢は厳しく時給2,000円の警備の仕事は破格である。工事用の車両が埋め立て地に侵入するとき。座り込んでいる人たちを「ごぼう抜き」と称して手と足を抱えて強制的に排斥するのが仕事である。もともと利害関係のない住人たちが、税金によって反目させられているのである。平和な日本において、南のこの地にいまだ内戦状態のような日常がある。

# 夢よもっとひろがれ

1 2021 月号  
Winter  
vol.205  
発行・編集  
いぶきファミリー  
(旧いぶき福祉会後援会)

F502-0907  
岐阜市島新町5番9号  
TEL.058-233-7445  
FAX.058-232-9140  
[ibuki.m@ibuki-komado.com](mailto:ibuki.m@ibuki-komado.com)

25th  
anniversary

もくじ

- 2 新年のごあいさつ
- 3 行事報告
- 4 わたしと娘といぶきと
- 5 連載:心のバリアフリーナビゲーター  
恩田聖敬が愛を語る
- 6・7 横幕さんおつかれさまでした
- 8・9 コミュニティーガーデン
- 10・11 仲間のすがた
- 12・13 ハッピーハッピープロジェクト
- 14 オンライン見学会
- 15 施設見学
- 16 情報掲示板  
4コマまんが・編集後記

## あけまして おめでとうございます

仕事始めで顔を合わせたその後に、第二いぶきの仲間たちは、お年賀のいぶき商品セットをもって、近くの出屋敷地区を一軒一軒、新年のご挨拶にまわります。開所から22年続けてきたこと。ささやかな幸せをお届けするのは、いぶきの得意技です。今年もおおらかに、できることをためらいなく実行する一年に。

## 新年のごあいさつ

社会福祉法人いぶき福祉会 理事長  
横山 文夫

新年おめでとうございます。

旧年中はお世話になり、ありがとうございました。本年もよろしくお願い致します。いぶきでは、昨年4月に、念願のパストラルいぶきのD棟、E棟を建築し、無事開所することができました。寄付いただいたり応援していただいた皆さんに改めてお礼申し上げます。そして新施設がコロナ禍の下でも順調に運営されていることを皆様にご報告致します。

昨年のコロナ禍において、いぶきでは、施設内で感染者を出さないために、更にはクラスターを発生させないために、細心かつ最善の努力を尽くしてきました。いぶきを利用する仲間たちとご家族、職員の皆さんを新型コロナウイルスの感染から守ることは、いぶきにおいても、喫緊かつ最重要の課題として取り組んできました。施設毎の運営をできる限り、独立化させ、マスの集団をつくらぬ運営をするのもそのひとつでした。

そして理事会や幹部職員を中心として、仲間や職員の1人がコロナに感染した場合に、法人全体、そして各施設毎、更には濃厚接触者への対処をどうするかを想定し、その準備を重ねてきました。それらは、表面にはでてきませんが、必要かつ不可欠な法人のいぶきとしての対処方策でした。

私がこのような取組みの中で、そしてこの1年間の政府や自治体の取り組みを見聞する中で深く感じてきたことは、現在の日本の医療制度が、施設設備の拡充の分野でも、医師や看護師等のスタッフの側面でも、脆弱であり、市民の生命と健康が守り抜ける体制・能力が大幅に不足しているということです。

マスクをして、混雑な場所を避ける等一人ひとりが感染しない努力をするのは当然ですが、もし誰か感染した人が現れた場合、保健所と医療関係者で、他の人に感染させない措置をとり、重篤化させないよう必要な治療をすべきであるのに、今の日本の状況は、保健所・病院そしてそこで働くスタッフの数を減らし続けてきたツケが今現れてきて、対応が後手に回っているのではないのでしょうか。

今回のコロナ禍を契機として、現在の日本の状況の中で、国民の健康と医療、老人と障害者の福祉、契約社員やひとり親など社会的弱者を、どのように守り、充実したものとしていくのか、皆さんとよく話し合い、取り組んでいきたいと希望しています。

最後に今年一年の皆さんとご家族のご健康とご多幸をお祈り致します。



2021年元旦



## アトリエ運動会

第二いぶき 浅野 裕美

第二いぶきでジャムやポン菓子などの製菓を製造しているアトリエ(ほっぺとポンマジック)では、毎年楽しみにしている小旅行に新型コロナの影響で行けない代わりに10月29日にファミリーパークの体育館を貸り切って“秋の大運動会”を開催しました。運動会に向けて自分たちで横断幕や万国旗などの飾りを作り、体育館の壁を飾って運動会の気分を盛り上げました。それぞれチームカラーの鉢巻きを巻いて気合を注ぎました!!



はじめに、ケガをしないようにラジオ体操で体をほぐしました♪そして赤と青チームに分かれて風船リフティング、ストラックアウト、玉入れ、風船おとし、風船リレーで勝負をしました。審判は酒井聡さんが務めました。特に盛り上がったのは風船リレーです。風船を乗せたタオルの両サイドを仲間、職員1人ずつ持ってリレーをしました。早く走ろうとすると風船が落ちてしまい、タイムロスになってしまいます。上手くタオルの中に風船がとどまるようにしながら、次の人たちにパスしていきました。リレー中は大きな声で「がんばれー」「速く、速く!!追いつかれちゃうよ」と応援する声が聞かれました。

赤チームがリードしていましたが、青チームが追いついてきて、両チームが同着に見えました。ですが、厳正なる酒井さんのジャッジにより青チームの勝利となりました。



運動会の締めにはハッピーを着てソーラン節、パプリカを全員で踊りました。

たっぷり身体を動かした後は、第二いぶきに帰って創作弁当専門店ベビータの豪華なお弁当を食べました。その後は自分たちの運動会の動画を見ながらいちごが入ったホールケーキと美味しいコーヒーや紅茶を楽しみました。

最後は赤チーム、青チームの健闘を称え、賞状の授与で一日を終えました。運動会が終わった後に仲間たちにインタビューしてみました。「運動会、めっちゃ楽しかった♪勝つことができてうれしかった」「負けちゃったけど楽しかった。もう一度運動会をやってリベンジしたい!」「お弁当とケーキ、とっても美味しかった。また、食べたい」という声が聞かれました。今年はコロナ渦で施設の外に出る活動が限られていますが、その中でも自分たちでできることを考え、できたことはとても良い経験となりました。旅行とはまた違う楽しみ方を覚えた秋となりました。



# シリーズ わたしと娘といぶきと

田中 一夫



7才家族旅行で浜名湖ハルハルへ

絢菜(あやな)は田中家の第二子として、平成9年8月23日にほぼ予定どおり生まれてきたのですが、出産後すぐに低血糖による脳性麻痺により、産院から救急車で長良医療センターに搬送されました。長良医療センターで言われた言葉は、この3日間が生死をわけるし、後に障害が残るとも言われました。妻は産院にいたため、このことを聞いたのは自分ひとりでした。聞いた時は、これからどうしたらいいのかと、不安と将来のことなど心配事ばかりでした。産院に戻り妻と話した時に、すごく泣いたことを今でも覚えています。



18才 ミキサーの紐を引っ張りかかはん作業

絢菜の頑張りもあり、長良医療センターを1ヶ月ほどで退院しました。それからは妻と絢菜との二人三脚で、長良のポップの家、関市にある養育訓練センター、それ以外に長良、犬山、あじろのリハビリなど、絢菜が少しでも良くなることを願い、色々な所に妻が連れていってくれました。

本当に頭が下がります。色々な施設で絢菜の頑張っている姿を見たときは、本当に嬉しかったです。

その後、関特別支援学校の小学部、中学部、高等部と進学しました。学校での行事、運動会、文化祭など、子どもの成長の姿を見るのがすごく楽しみでした。今振り返ってみると、色々な節目節目には、たくさんの人が関わり、助けてもらい、今があると思います。それもみんな絢菜が導いてくれたと思います。

絢菜には二つ上のお兄ちゃんがあります。上は男の子なので何をするという感じではありませんが、すごくかわいがっていました。それは今回の原稿の依頼を受け、幼い頃からのアルバムを見返した時に、それを一番に感じたからです。これは本当に良い機会になりました。

その後進路のため、たくさんの施設を見学して回りましたが、その中でいぶきが一番でした。そんないぶきに入所することができて、本当に良かったです。

いぶきに入って3年目になります。絢菜を見て頂いている職員の方々、仲間の皆さんには頭が下がります。入所3年目の新参者ですが、これからもよろしくをお願いします。何か親としてお手伝いできないかと思い、父親の会に参加させていただいております。親子共々、これからもよろしくをお願いします。



20才 御朱印帳の納品へ

## 心のバリアフリー ナビゲーター 恩田聖敬が

おんだ さとし

# 愛を語る!



vol.5 親子愛



私は子供たちを愛しています。それはALSでも全く変わりません。私は動けなくてしゃべれません。よって子供の帰りが遅くても様子を見に行くこともできず、ただただベッド上で待つことしかできません。だから私は帰った子供に「どれだけ心配したと思ってるんや!」と叱ります。それが私の愛情表現なのです。元来仕事バカな私は、もしALSになっていなかったら仕事に没頭して子育てを妻に任せていたかもしれません。それがALSになり基本的に終日自宅生活のため、子供たちと同じ空間にいる時間は発症前よりも確実に増えました。これってラッキーなことではと思います。



2人仲良くピアノに向かう娘と息子

日に日に子供たちは成長していきます。小6の娘は最近の言動が妻に似てきて、子供から女性に変貌を遂げました。「パパ、パパ!」と無邪気に言っていた娘はもういません。それでも、今のところ嫌われてはいなさなのが救いです(笑)一方息子にはALS発症前の私の記憶がありません。また息子が3~4歳の時はFC岐阜社長業に邁進していたので、私自身にも娘ほど息子と遊んだ記憶がありません。動けないしゃべれないパパ、息子の中にもどう接すればいいという戸惑いはあったと思います。



気管切開の手術後、無事に子供たちと自宅暮らしをします

雪解けのきっかけは気管切開して人工呼吸器をつけたことでした。気管切開直前の私は度々の呼吸苦もあり、精神的余裕が全くありませんでした。こうした事情から、当時小1のヤンチャ盛りだった息子には叱るのが精一杯でした。息子には、ろれつが回らない、言葉ではない声を何度も荒げました。それが気管切開で呼吸苦がなくなって心に余裕が生まれます。皮肉にも、気管切開により声を完全に失ってから、私と息子はコミュニケーションのスタートを切ったのです。妻から『ALSだからと言って、居るだけで父親になれると思わないでね!』と言われたことがあります。その通りだと思います。子供の成長を見届けられる環境に感謝して、私なりの子供たちへの『愛』を伝えていきます。



すっかり落ち着いた女性に成長した娘 やんちゃ盛りだけど芯はぶれない息子



## 横幕さん、おつかれさまでした！

法人本部 北川 雄史

いぶきの誕生は、社会福祉法人認可された1994年(開所は1995年)よりもさらに12年前の1982年まで遡ります。無認可の共同作業所の頃からずっと、いぶきを支え続けてきた横幕嘉行さんが、10月末日で定年退職を迎えました。仲間や保護者にとっても、支援者や地域の方々からも、いぶき福祉会に長く関わってくださった方であればあるほど、「いぶきといえば横幕さん」と言われるような存在でした。本来であれば、いぶきへの思いを寄稿いただくところですが、諸事情も重なりそれも叶わず、電話での話なども交えて、振り返ってみたいと思います。

### いぶきと出会った頃のこと

横幕さんといぶきの出会いはまだ30歳の時のこと。体調を崩して仕事ができずにいた頃、参加していた全国障害者問題研究会でご一緒されていた教員の方から声をかけられたそうです。そうして出会ったのが、竹中隆晟さん(故人)。今もいぶきのグループホームで暮らす竹中均さん(ごんのしま作業所)のお父さんです。均さんを含めた3人の仲間が養護学校(特別支援学校)を卒業してからの、小さな小さな居場所づくりが、横幕さんが任されたことでした。場所は岐阜市則武にある小さな工場の一角。行くところがないなら、気楽においでといってもらえる場所に、当時一般就労していた伊藤強志さん(ごんのしま作業所)や、ご近所だった川島文子さん(故人)も加わって、少しずつ輪がひろがっていきました。それが横幕さんと仲間たちの物語の始まりでした。

### 楽しかったことといえば？

そんな横幕さんに、いぶきで楽しかったことって何を思い出すの？と聞きました。最初に出てきたのはなんと「徳山ダム」のことでした。私自身もそれは初耳。聞くと、当時建設が始まっていた徳山ダムに、作業所みんなで見学にいったとのこと。キャラバン1台にみんなで乗り込んで、1日かがりて出かけたそ

うです。それから、小規模作業所を作る話を聞くために、マイクロバスを借りて高山まで行ったときのこと。高速道路もない時代。峠でバスが動かなくなってしまうハプニングも乗り越えて参加した集会で、作業所づくりの話を聴きながら「私たちも頑張っていかなば」と思ったそうです。

### 法人認可にむけて

そんな話をする横幕さんに、やっぱり法人認可って横幕さんにとっては特別だったの？と投げかけます。「私自身はそんなに意識が高かったわけでもなかったから、ついていくような気持ちだったかな。法人化していかないと先がないとは思っていたんだけどね。当時はみんなで廃品回収をして稼いだお金のほとんどが、私のお給料で消えていってしまうような時代。資金は貯めてはいたけれど、それでも600万ぐらい。こんな額で何ができるんだ…？って。」でも、それが本格的に募金活動につながっていったんでしょう？「そう。本当にあの募金活動は、信じられなくて。5000万円なんて簡単に集まるお金じゃない。なのに毎日のように、すごく募金が集まって。結局7000万円が集まった。人の力、勢いってすごいなあと思った。顔を合わせたことがないような方が、見えないところで頑張ってくださっていて、本当にありがたかった。」

### そうやっていぶきは生まれたんですよね

横幕さんにいぶきを振り返ってもらいながら、出てきたのは、できたばかりの頃のことばかり。まるで、我が子のことを振り返るみたいだなあと思いました。そんな中でひとつご相談したのは、いぶきふれあいまつりのこと。例年であれば年始には、春のまつりにむけて実行委員会が立ち上がる頃です。でも、昨年の中止につづいて、今年をどうするかはまだ予測がつかない状況です。「まつりは、法人化の前から続いてきたから。島地区から離れてやっても意味が半減してしまう。みんなが集まって、心をひとつにするってすごいことだと思う。毎年続いてきたんだもん。なんとか続けたいよね…。」横幕さんの思いは、私たちと一緒にです。

### またいぶきに遊びに来もらえますよね？

そんな問いに「面倒くさいなあ」と苦笑いする横幕さんに、いぶきのみんなにメッセージをお願いしました。「なかなか遊びには行けないけれど、今までのことを忘れずに毎日を大切にやってください」とのこと。あまりにそっけないので、「やっぱり遊びにきてもらいますね、迎えに行くから」といって電話をおきました。一昨年に定年退職された林守男さん(現副理事長)、そして横幕嘉行さん。私にとって、やっぱり「法人の中にいながらゼロから作り上げてきた人」の存在は特別でした。永遠に渡し継がれていくバトン。託されることは決して楽なことではありませんが、チームできちんと受け止め盛り上げていきたいと思っています。

10月26日(月)に長年いぶきでご活躍された横幕嘉行さんの送別会を行いました。お昼にグランパール岐山でサテライト・ハローのグループとの食事会をしました。病気療養期間が長く、一年半ぶりの再会となり、いつもと違う場所ということもあって、最初はお互いとても緊張してしまいました。しかし、顔をあわせて、「久しぶり」と声を交わすとすぐにいつもの横幕さんのちょっとしたんびりとした心地よい雰囲気になりました。「ああ、元気？」「しごと頑張っている？」といういつもの会話ですが何年も過ごしてきた中での会話はとても安心します。食事会のあとは、引き続き場所を移して、他のいぶきの仲間たちとグループごとで会ったり、オンラインでも中継しました。小規模時代から一緒だった仲間たちはひとりひとり握手してお話をして、昔話に花を咲かせました。横幕さんは昔のアルバムを見ながら仲間の名前を指さして呼びながら「まだ



みんな若かったなあ」「(いぶきは)小規模時代からだだと37、8年くらいかな」と仲間の笑顔の中で淡々と語っていました。横幕さんが30年以上も仲間の笑顔とともに歩んできた歴史を感じ、私たちがいまこうして仲間と過ごしているのも横幕さんの頑張りがあったからこそと感じました。会場に来れなかった仲間たちともオンラインで久しぶりの再会。普段画面を覗き込まない仲間もパソコンの向こうから大好きな横幕さんの声がするとじっと長い間見入ったり、手を振って笑顔になっていました。みんなが横幕さんと会いたくて予定していた時間を2時間以上もオーバーしてしまいました。会ったら握手して、乾杯して、写真を撮ったら、そうなりますよね。

横幕さん最後まで本当に笑顔でお付き合いいただいて本当にありがとうございます。まだまだ、握手と乾杯が足りない仲間が多いので定期的に来ていただかないといけません。



# いぶきコミュニティガーデンプロジェクト

[花壇のお手入れとみんなのイス]

いぶき 山本 友美



## 花壇の植替え



11月14日土曜開所の日を利用して、日光町のお庭の植え替えと、いぶき福祉会玄関前の花壇にお花を植えました。今回も、コーディネーターの木村智子さんと千葉順子さんにお越しいただき、コープぎふ西支所の方々、いぶきの利用者さんやスタッフ総勢30名ほど、2班に分かれて作業しました。



仲間と一緒に作業、コープさんには力仕事！頼りになります。

日光町の花壇では、一年草の植え替えや伸びたお花の切り戻し作業。いぶきの花壇では、低木を2本抜いて土を整え、日陰に強い宿根草を中心に植えました。昨年、このプロジェクトの立ち上げたときにも参加して下さった方に一年ぶりにお会いできたり、その時植えた花々の成長や、そこで日々過ごしている利用者さんたちの風景を見てもらいながら、一緒に過ごせたことが本当にうれしかったです。作業のあとは、花壇の一年間を写真とともに振り返りながら、ご近所の方との会話も生まれましたという話も聞きました。



この場所がもっと開かれた場所にしたい。お庭を眺めながらおしゃべりしたり、くつろいだり、地域の方が気軽に立ち寄ってもらうために、どうしたらいいか話し合いました。イスがあって、お気軽にどうぞと小さな看板があったらいいかも！という意見がでると、コープの今川さんが「どうぞのイス」という絵本のお話が素敵だよ！と教えてくださいました。それいいですね～、そんな優しいストーリー素敵！自分たちでつくれたら最高！と盛り上がりました。木村さん、千葉さんのあたたかなお人柄や、仲間の存在もあり和気あいあいと、楽しく癒しの時間でした。



## みんなのイス



いぶきのご近所の一新建設さんは、毎年いぶきまつりの協賛をいただいたり、端材を提供してもらったりと、とてもお世話になっている会社。そんな一新建設さんが花壇の植替えの時に話した「どうぞのイス」づくりのことを相談すると、材料の提供をしてくださることになりました。社長の長谷さん、建築士の奥村さんは、私たちの話を丁寧に聞いてくださり賛同してくださいました。イスとテーブルの設計から材料のカット、番号やガイドラ



職人のようにどんどん塗る仲間たち。

イン、穴あけ、ボルトや補助となる材料の準備まで、さらには、写真付きの組立解説書まで作成くださいました。まるで便利な制作キットそのもの。塗装してから組み立てができるよう早めに納品していただいた材料に12月10日、日光町のメンバーと一緒に保護材塗料を塗りました。みんな上手で、しっかり塗ることができました。乾燥させ、準備完了！



一新建設の社長からレクチャー

そして迎えた組立当日、一新建設のおふたりをお迎えして初めにみんなでお礼の言葉を伝えさせてもらいました。社長から注意点や作業のポイントを教えていただき作業の開始。グループに分かれ7脚のイスを解説書を頼りに一斉に作り始めます。番号やラインが付いているので凄く作りやすくてびっくり！わいわいがやがや、ドライバーの音を響かせながらど



はじめてのインパクトドライバー、最初は驚きながらも、これは楽しいぞ。



できあがったイスを花壇の周りにおいてみました。

らんどん作りすすめ、ちょっと曲がったり、穴が開いたり隙間が空いたりで愛嬌たっぷりのイスが完成しました！やったー!! やったー!! 仲間も満足そうです。記念撮影をして、仲間を送り出した後は、女性はスワッグづくり、男性は引き続きテーブルづくりに没頭しました。男性陣の作業の早いこと！そしてそして、波のようにカーブした机のひとつがなんとハートの形になったのです！一新建設さんの素敵なサプライズでした！最後に、「どうぞのイス」のことを教えてくださったコープの今川さんが絵本を借りてきて下さったので、読み聞



座り心地も最高

後日、一新建設さんのところへお礼に

かせタイム！辻本さんの関西弁のお話しぶりにもたっぷり癒されて締めくくりました。心洗われる清々しい時間をたくさんの方と一緒に過ごすことができ大変うれしくて満足な一日となりました。

ご参加くださった方、ご協力くださった方々のお陰で、またひとつコミュニティガーデンの物語ができました。このお庭が訪れるひとたちと、ゆったりと繋がれる憩いの場所となるように、大切にしていきたいと思っています。そして、「どうぞのイス」からヒントをもらって作ったこのイスは「みんなのイス」と名付けました。みなさんもぜひ座りにきてください。



ハート型テーブル♡



# 仲間のすがた

永田 晃大さん

ながた あきひろ

## 学生から社会人へ

いぶき 新家 彩織

永田晃大さんは、4月からいぶきのごんのみ「パレット」で働く仲間です。昨年の3月に特別支援学校の高等部を卒業したばかりのピカピカの新社会人1年生です。在学中は、小学部5年生から高等部を卒業するまでの7年強、放課後等デイサービスいぶき「たーぶる」を利用していました。たーぶるを利用していた当時は、音楽を聴くことや職員が歌う曲に合わせてお腹を叩いてリズム遊びをすることが大好きでした。その一方で、生活の場面では、周囲の環境に変化があったり、近くに苦手な仲間がいて不安な気持ちになったりすると、日々の決まった動作の中でも、額に汗を浮かべて、その場で固まってしまう場面が見られていました。そのため、たーぶるでは、楽しい場面だけでなく、永田さんが不安に感じているとき、困っているときに、本人から気持ちを伝えられるようなサインの出し方を、遊びを通じたやり取りの中から探ってきました。そんな永田さんにとって、今年度は、通い慣れた学校とたーぶるを卒業して、学生から社会人になって働きはじめるという大きな変化のある年でした。

いぶきに就労して間もない頃は、生活面でも仕事の場面でも知らないことばかりで戸惑うことも多く、不

安から固まってしまうことがありました。ですが、たくさんの先輩たちに囲まれて時間を共有していく中で、少しずつ永田さんに変化が見られるようになってきました。ごんのみ「パレット」の朝は、日直が仲間の点呼をして、みんなでラジオ体操をすることから始まります。



ラジオ体操で体をほぐして

もちろん永田さんにも日直の仕事はまわってきます。日直が点呼をする際、職員と一緒に一人ずつ仲間の前に行って朝の挨拶をするのですが、名前も性格も知らない先輩たちの近くに行って挨拶をすることは永田さんにとって不安でいっぱいでした。そのため初めの頃は、慣れない先輩たちの近くになかなか行くことができなかつたり、大勢の仲間や職員の顔と名前を一致させることが難しかったりしました。それは仕事の場面でも同じで、慣れていない周囲の環境や仲間の様子に不安を抱いて落ち着かなくなると、立ち上がって距離を取ろうとする行動がみられました。ですが、先輩たちと生活を共にして、働く姿を一番近くでみて仕事のやり方を学んでいく中で、少しずつ個々の性格を知り、お互い安心できる距離感をつかんでいきました。今では、先輩たちの名前と顔もしっかりと一致していて、朝の点呼も一人ずつ先輩たちの前に行って挨拶をすることができるようになりました。一日の始まりと終わりに行うラジオ体操も、部屋の中心に立って音楽に合わせて大きく体を動かして気持ちを整えることができます。



「お仕事どう？」インタビューで笑顔を見せてくれました

農作物を育てているごんのみでは、時期によって色々な仕事が任せられます。春はスナップエンドウの収穫をしました。立派に育ったスナップエンドウをカゴに入れて収穫していきます。大切に育てた野菜を収穫するのは少し寂しい気持ちになりますが、カゴが収穫物でいっぱいになるのは、とても満足感があります。夏はお茶の実割りをしました。ハサミで割れ目が入れてあ



硬い茶実もキレイにむけました

るお茶の実の殻を手で割って実の部分を取り出していきます。手先の細々とした動作が必要となる仕事ですが、指先に意識を集中させてひとつずつ殻をむいていきます。秋はイモ拭きです。収穫した里芋を布で拭いて土を落としていきます。イモに傷がつかないように丁寧に拭いていきます。どの仕事も、永田さんにとっては初めての作業ばかりです。初めは隣に職員がつい



先輩たちと一緒にお仕事がんばり中

と一緒に仕事を行っていましたが、次第に仕事の要領を得てくると、側にいなくても、周りの先輩の仕事ぶりや様子をうかがいながら任せられた仕事に取り組むことができるようになっていきました。頑張っペースを上げすぎると、途中で集中力が切れてぼーっとしてしま

こともありますが「あきひろさん」と声をかけられると、再び仕事に気持ちを向け始めます。このような姿は、社会人1年目らしい姿だと微笑ましく感じます。これから少しずつ自分にあったペースを見つけて、生きいきと仕事に向かえたらと思います。

日々任される役割りに期待と戸惑いを抱きながら

も、ひとつずつ丁寧に向き合っていく永田さんですが、休憩の時間になると、たーぶるでの思い出がよみがえることがあるのか、同じ建物内にあるたーぶるの部屋へ一人で行ってしまうことが何度ありました。以前の永田さんなら、職員の「もどります」の声掛けがあっても頑なに動こうとせず、しばらくその場に留まる姿が予想される場面ですが、今では呼ばれるとすぐにパレットの部屋に戻ることができています。永田さん自身、学生時代を懐かしく思いながらも、少しずつ大人へと成長していることが表れている姿だと感じました。

これからも初めての仕事や活動に取り組んだり、人間関係を築いたりする機会がたくさんあると思います。そのたびに、永田さんがどのように乗り越えて成長していくのか、ごんのみ、たーぶるのみんなで楽しみに見守って行きたいです。



あと片付けもバッチリ！！



お疲れさま、冬のボーナスです



# ぎふハッピーハッピープロジェクト本格始動！

“おもい”をつなげて、ハッピーをふやし“ねがい”に届けるしくみです。

「寄付つき商品」をご存知ですか？

社会貢献を考える地域の企業等が商品やサービスを提供し、それが購入されることで売り上げの一部を地域の困りごとの解決を目指す団体に寄付するしくみです。多様な人たちが気軽に地域づくりに参加でき、「win-win」を超えた「happy-happy」な関係を育む活動として注目されています。

## 1. 3.と、見たいとみるよ… 「おもい」が「ねがい」あるよわ。

いいことをしたいと思っている人はたくさんいるのに、困りごとを抱えたり、地域にはいろんな課題があふれている。でも、どうやって解決したらいいんだろう。



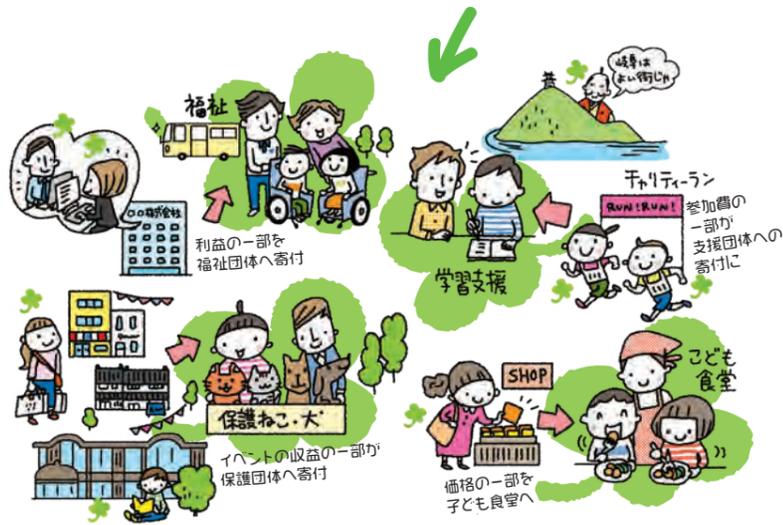
## 2. つながり、みるよ 一緒にできることがあつたりして。

プロジェクトにして、“おもい”と“おもい”をつなげたら、ハッピーがいっぱい増えたよ！



## 3. そうして、たくさん生まれたハッピーも 集めて届けるプロジェクト

たくさん集まったハッピーが“ねがい”に届いて、岐阜のまちにありがとうがあふれたよ。



### 覚書調印式

12月18日(金)岐阜市メディアコスモスにて、ぎふハッピーハッピープロジェクト覚書調印式をおこないました。このプロジェクトは本紙面でも何回か紹介させていただいておりますが、地域の企業と福祉団体が協力して商品・サービス(寄付つき商品)を作って地域の困りごとの解決を目指す取り組みです。今回、岐阜市の認定を受け、この取り組みをふるさと納税の仕組みを使って行うこととなりました。目標額700万円とし、2020年12月31日までの間で152人から2,731,900円の支援をいただきました。



調印式では、以前からつながりのある白木恒助商店さんと平塚家具さんがプロジェクト趣旨に賛同いただき岐阜市長柴橋正直氏立ち会いのもと覚書を取り交わしました。



会場の様子、メディアコスモスかんがえるスタジオにて

白木恒助商店さんは第二いぶきの近くで蔵元をしていて、昔からいぶきのカタログ販売商品でお酒の仕



白木恒助商店白木様 平塚家具平塚様

入れをさせていただいています。平塚家具さんはいぶきに家具を入れてくださっていて、今回のパストラルいぶきの家具についても担当していただきました。プロジェクトでは、白木恒助商店さんは古酒の「達磨正宗熟成三年500ml」の売り上げの一部を、平塚家具さんは家具ブランドの「アルブリズム」の売り上げの一部をいぶき福祉会にご寄付いただきます。プロジェクトの概要やいぶきの成り立ちなどをご説明させていただき、各社の代表の方より本プロジェクトへの思いを語っていただきました。各社といぶきが覚書に判を押しました。その後覚書を掲げて参加した仲間とともに写真を撮りました。



市長と、覚書きに調印した各社といぶき福祉会横山理事長とメンバーと一緒に

ハッピーハッピープロジェクトを通して多くの地域の困りごとを解決する商品・サービスが生まれ地域に広がっていくことを願っています。そして商品に多くの方が出会うことで、地域の課題を企業、市民、福祉団体で解決していける機会を広げていきたいと思っています。



12月12日(土)、オンラインにてかりんとうの工房見学を実施しました。今回は昨年の7~8月に実施したクラウドファンディング「いぶき福祉会かりんとう応援プロジェクト」で支援をいただいた方に実際に作っている姿を見もらうために行いました。北海道や静岡など全国各地から9人の方がご参加いただき、いぶきゆめひろ共同作業所で作っているかりんとう製造の様子を中継。普段は、衛生管理の為なかなか入れない工房内にカメラが入り、油で揚げるところや砂糖をからめる様子など、作っている人しか見られない工程を見ていただくことができました。また、工房内は狭いため何人も入ること



カリカリに揚げたかりんとう。

ができないのですが、オンラインならではの臨場感をみんなで共有できました。カメラが入ると、仲間たちはちょっと緊張していましたが仕事をする手つきはいつも通りです。参加者に流れるような仕事の風景をお届けしました。仲間へのインタビューでは、作業で気をつけていることを聞くと、とても上手に仕事に集中していることを話す仲間や、緊張して「何も気をつけてない」と答える仲間など、みんな正直に個性豊かに自分の仕事を答えていて、みんなが楽しく働いていることが伝わっ

ていくようでした。作業工程の中継の後には、仲間と参加いただいた方と質問形式で交流をしました。かりんとうの生産量や、夏の暑さや、シールの貼り方の工夫などを聞いていただきました。参加者の皆さんは、職人のように働いている仲間たちに感心されていて、仲間たちは少し



最後の仕上げの「糖絡め」

照れながらもとてもうれしそうな表情でした。仲間が仕事をしていて何がいちばん嬉しいか尋ねられると、「自分たちの頑張った作ったかりんとうが、おいしいと言って喜んで食べてもらえるのがとてもうれしいです」と胸を張って答えているのを見て、とても誇らしかったです。今回の取り組みは支援いただいた皆さんに見ていただく機会となりましたが、オンラインで間近で直接やり取り



インタビューに応じてくれた樋口さんと大洞さん

してねぎらっていただいたことで、私たち自身がとても元気をもらえた機会となりました。オンラインによる情報発信が増えているこの時だからこそ、チャレンジできたこのような交流の機会を、仲間のためにもまた設けられればいいなと思っています。



ご参加いただいたみなさんといぶきのみんなの様子

## やまなみ工房見学

いぶき 星場 真希

アート活動が盛んで注目を集めている滋賀県の「やまなみ工房」さんに見学にお伺いしました。はじめに施設長の山下さんから無認可だった設立当初は苦勞される期間が長く、工房のアート活動は一本の色鉛筆から始まり、仲間の幸せをその都度思い返しながらか何か今があるというお話を伺いました。



ひとりひとり描きやすい場所で、自分のペースでつくられる作品

また、美術の専門家はいない中、ひとりひとりの仲間の幸せについて考えた先の作品が展示会を行う中で人の目に留まり、それぞれが胸を張ることができ作品が雑誌掲載やパリコレ、様々なメディアに掲載されていることを穏やかな語り口でお伝えになり、丁寧に館内案内をしてくださいました。



こちらは縫い物、好きなことに取り組みます

広い敷地には建物がいくつもあり、その間のスペースには豊かな緑とベンチがあることでぬくもりを感じることができました。また、建物やグループごとにあたたかみと特色があり、縫い物や絵画、粘土などの創作活動や、生まれる作品も向き合う姿やしつらえも様々で、十分なスペースの中で集中できるように環境設定されているのが印象的でした。



大きなギャラリーは見応え充分!

そのような集中できる環境で創作活動を行い、見学者が来ると胸を張って挨拶をして目を輝かせる仲間の姿が印象的で、熱が込められた作品が飾られたギャラリーでは作品一つひとつに見入ってしまい、時間内ですべてを見きれない程に見どころ満載でした。そのようなやまなみ工房の活動をいぶきに置き換えたなら…色々な活動が生まれ、仲間の瞳の輝きが更に増すとしたら素敵なんだろうと、仲間ののびのびした姿や輝く瞳に羨ましさを感じつつ、今後の過ごし方に思いを馳せながら帰路につきました。

現在いぶきでは一部のグループでアート活動を行っています。アート活動の立ち上げから関わらせていただいている私が感じていることとしては、仲間が自分の世界に浸って楽しむことができる活動や思いを表現できるような活動ができたらいいなということです。立ち上げ当初は絵が元々好きで積極的に取り組んでいるなかまの熱量に引っ張られるように、他のなかまが影響を受けて気持ちが花開いていき、活動が徐々に浸透することで共通の会話が増え、仲間独自の世界が広がったように感じています。絵本や色味のきれいな図鑑、なめらかな書き味の画材も大切な要素と感じています。さらに継続することで色合いや画材の使い方などに個性が出てくるのではないかと考えています。これからも楽しんだ結果として生まれた表現が周囲と繋がるきっかけとなるよう、微力ながら手伝いをしていきたいと思っています。



新幹線に身を乗り出したふたり、こんな風に心が躍り始めます。